

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和7年5月21日
NO.2 文責 河村

川のつながいについて考える～サケの稚魚放流を通して～

昨年10月、更別にあるサケのふ化場からオスとメスのサケをいただき、そのサケを学習材として、開西小学校にてサケの授業がありました。授業の中で実際に卵の受精を行い、約1000個の受精卵を豊成小学校にも譲っていただきました。その後、豊成小学校の水槽や機関庫の川のいけすで、子どもたちと一緒にサケの赤ちゃんを大切に見守り育ててきました。



そして、4月24日（木）に3年生とサケの稚魚放流の授業を行いました。毎年この活動は、日頃から地域ボランティアでお世話になっている石垣さんをはじめ、今回は来られませんでした。とちかち帯広サケの会の千葉さんや伊藤さんのご指導をいただき、3年生が機関庫の川で実施するキャリアに関わる学習の一つとなります。



サケの稚魚放流の取組をより意義のあるものとするため、センターホールにある大型地図や機関庫の川に関するワークシートを活用し、川同士や海とのつながりを確認することができました。

6月11日（水）には、石垣さんを講師としてお招きし、放流したサケの稚魚が、今後どのように海に向かい大きく成長し、川に戻ってくるかについてお話をさせていただく予定です。



これらの学習を基に、3年生の子どもたちには、どんどん自分のやってみたいことや調べてみたいことを見つけ、機関庫の川の学びを深めていってほしいと思っています。



～サケの稚魚放流の振り返り～

- ・石がきさんのお話を聞いて、サケの赤ちゃんがぶじに帰ってきてほしいと思いました。いのちの大切さを考えることができました。
- ・ほうりゅうするとき、サケの赤ちゃんがびっくりしないように、なるべくコップを川に近づけてながしました。
- ・サケが海に行ったら、どんなものを食べてどんな生活をしているかくわしく知りたくなりました。
- ・サケの赤ちゃんをほうりゅうしたら、すぐ海にむかってすすむと思ったけれど、じっとしていたり、ながれとはんたいにおよいだりするすがたを見ることができました。